

◆ ケアマネジャーのための情報誌 ◆

ケアマネ SAPPORO

2017.10.1 発行

発行

一般社団法人
札幌市介護支援専門員連絡協議会

事務局

〒001-0010
札幌市北区北10条西4丁目1
S Cビル2F

TEL 011-792-1811
FAX 011-792-5140

第108号

- P1~2. 「医療ソーシャルワーカーから医療と介護の連携に対するケアマネジャーへの役割・期待」 西岡病院 医療ソーシャルワーカー 岡村 紀宏
- P3. 札幌市からのお知らせ「特別養護老人ホーム入居申込者(待機者)及び入居者推移について」
- P4. のみこみ安心ネット・札幌「食支援・摂食嚥下のサポート」札幌深仁会リハビリテーション病院/医師・副院長 橋本 茂樹
- P5. 知っ得(特別授業)「災害リハビリテーションの実践」DoRAT 作業療法士 吉岡 英章
- P6. アンガーマネジメントを知っていますか?② (一社)日本経営協会 コミュニケーション・アドバイザー 岡本 真なみ
- P6. 第1回ケアマネ実践事例発表大会ご案内
- P7. K P C24 きらり★ポジティブケアマネジャー [ケアマネ奮闘記①~ ノーザリー居宅介護支援センター 羽山 貴浩]
[ケアマネ奮闘記②~ 介護老人保健施設ナツグワ 大谷地 西田 弘美]
- P8. 北海道理学療法士会からのお知らせ「在宅における装具の現状と対応」



医療ソーシャルワーカーから医療と介護の連携に対する ケアマネジャーへの役割・期待

社会医療法人 恵和会 西岡病院 医療ソーシャルワーカー 岡村 紀宏

医療と介護の連携が「出来た」「出来なかった」という評価は何を基準に行うべきでしょうか。それはやはりクライアントの生活の質(QOL)が向上し、クライアントの望む暮らしが実現できているかどうか、その1点だと思います。

では、そのクライアントの望む暮らしをどのようにお聞きし、支える多職種でどのように共有するか、医療ソーシャルワーカーはクライアントとの面接で明らかにしています。もちろん介護支援専門員の皆さんも同じだと思います。しかし、クライアントはご自分の生活の可能性について、時にはまだ理解されていない面もあるでしょうし、限界点を感じていることもあるでしょう。また面接の中でお話をしていく中で、ご自分の可能性やニーズに気づくこともあるでしょう。ま

さに、医療ソーシャルワーカーも介護支援専門員も面接を繰り返し、その過程に丁寧に寄り添って関わっていることは同じだと思います。

実際の連携場面では、まさにその寄り添った面接場面の積み重ねで得たクライアントの生活歴、支援の経過やお考えの変化、支えてくれるご家族の関係性などの情報が伝達、共有され、更新されていくと良いと日々思っています。それが地層のように積み重なっていくことで良い連携基盤が出来上がることでしょう。もちろん日常生活の上でのADL情報の共有も重要ですが、やはり、クライアントの考え(想い)の変遷やこれまでの支援の経過、家族介護力の状況などのほうがより重要だと思います。ですので、入院・退院時のカンファレンスや入院された際、ケアマネジャーの

皆さんが病院の医療ソーシャルワーカーを訪問して下さるときはその様な情報交換があると良いし、フェイスシートもそのような内容があると良いと思います。ケアマネジャーの皆さんも支援で留意していた点をぜひ強調いただき、連携を図っていきませんか。

厚生労働省は人生の最終段階の意思決定支援について積極的に取り組み始めました。「人生の最終段階」のお話となると、胃ろう、心肺蘇生といったリビング・ウィルに近い、治療選択を想像される方も多いと思います。それは間違いではありませんが、医療と介護の連携が1つの線である必要があるとあり、この治療選択やそれにまつわる意思決定も1つの線であると思います。入院前の生活、その治療選択後に以前考えられていた望む暮らしができるか、療養先の選択はできるのか、費用の問題など、そのような視点を加えないと治療選択はできるわけがありません。そのような意味でも、在宅生活時にケアマネジャーの皆さんがどのような経過で関わられ、その方がどうということにお困りになり、なぜ訪問看護を使われるようになったのか、昔どのようなお仕事をされていて、周りのご家族はどのような方々なのか、どういうご希望をお持ちなのか。そのような情報は意思決定のおける重要な要素ですので、ぜひ情報提供をお願いできればと思います。最近アドバンス・ケア・プランニング（ACP）ということで表現されていますが、医療ソーシャルワーカーもケアマネジャーの皆さんもこれまで行ってきたことだと思います。また、退院後の後方支援先（入院先）についても確認され、退院支援がされると良いと思います。

退院後は、別のクライアントの件で連携される際にも、「〇〇さん、ご自宅でこのような様子です」とお知らせいただくと、病院側のスタッフへ支援のフィードバックにもなります。また、退院後の初回受診前にご自宅の様子をお伺いできると主治医にお伝えでき、診療に大変参考になるものです。その辺の継続的な連携はぜひ続けていければと思います。

可能であればというお願いですが、内科的疾患の際の対応を事前に検討しておくことです。主治医が整形外科や脳神経外科の先生でその他受診歴がない場合などは、札幌市には「とくとく健診」（特定健診）という制度もありますので、近くの内科医に相談できる体制を整えておくほうが良いかもしれません。

「入院」も「病気」も、突然起こるものです。準備が出来ていない状況で、様々なことを決めることが求められてしまいます。そのために、まずは患者さん（ご家族）と良質な信頼関係が築けているケアマネジャーの皆さんからの情報は貴重です。「これまでの生活」「これからの生活」「もしものこと」プラス、ケアマネジャーの皆さんが支援の留意点など、この辺の情報をぜひ共有して、良い支援と一緒につなげていければと思います。支援の留意点やこれまで関わってきたことをぜひ主張してください。

来年度は診療報酬と介護報酬の同時改定です。制度変化は連携の方法も変わるでしょう。そのような変化も共有しながら、「クライアント・ファースト」の連携と一緒に考え続けていければと思います。今後もよろしくお願いたします。



札幌市からのお知らせ

特別養護老人ホーム入居申込者(待機者)及び入居者推移について

札幌市では、半年に一度、入居申込者(待機者)及び入居者状況調査を行っております。このたび、H29.6月末時点でのデータがまとまりましたので、近年の結果と併せてご紹介いたします。

特別養護老人ホームの整備は、「札幌市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」に基づき進めており、今期計画(H27～29)におきましては800名分の整備を進めてまいりました。その効果もあり、入居申込者(待機者)は減少傾向、入居者は増加傾向かつ入居までの期間もやや短くなってきております。また、今年度は新たに5施設(定員各80人)が開設しましたが、昨年までと比べ入居申込が少なく、満床になるまで時間を要する傾向が見受けられました。

なお、次期計画の特養整備数は現在検討中ですが、入居申込者(待機者)が、減少傾向とはいえ、まだ3,000人を超えていることから、今後も整備を進める方針であります。

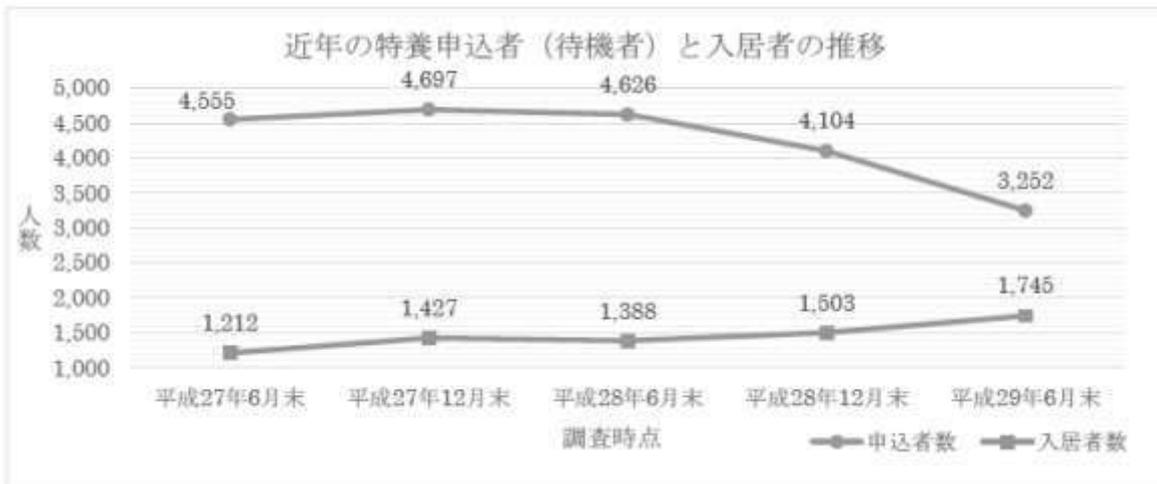
下記データも参考にして頂き、特養入居希望者への情報提供等、今後もよろしくお願いいたします。

■ 特養入居申込者(待機者)数及び入居者数

調査時点	入居申込者(待機者)数	調査時点直近1年間の入居者数
平成27年6月末	4,555人 (-2,016人)	1,212人 (-69人)
平成27年12月末	4,697人 (+142人)	1,427人 (+215人)
平成28年6月末	4,626人 (-71人)	1,388人 (-39人)
平成28年12月末	4,104人 (-522人)	1,503人 (+115人)
平成29年6月末	3,252人 (-852人)	1,745人 (+242人)

※カッコ内は前回調査との差

■ 【グラフ】



※参考

- (1)市内特養施設数：82施設 (H29.9.30現在)
- (2)市内特養定員数：6,090人 (H29.9.30現在)
- (3)今後開設の特養

- A：(仮称) のっぽろの里 (住所：厚別区上野幌1条1丁目 定員：80名)
 B：(仮称) あすかHOUSE白石 (住所：白石区中央1条5丁目 定員：80名)
 C：(仮称) しのろ三清荘 (住所：北区篠路5条8丁目 定員：80名)

※A、Bは平成30年7月、Cは平成30年10月開設予定。

【お問い合わせ先】札幌市保健福祉局高齢保健福祉部介護保険課施設指導係

滝田・大内・内藤 TEL：211-2972

～のみこみ安心ネット・札幌より～『食支援・摂食嚥下のサポート』



**第3回 肺炎が高齢者にどれだけ影を落としているか
統計からみてみましょう**

のみこみ安心ネット・札幌 副代表 橋本 茂樹（札幌溪仁会リハビリテーション病院／医師・副院長）

死因あああ

原稿待ち

【図2】

【図3】

【図4】

ケアマネのためのスキルアップ情報コーナー 

知っ得
特別授業

『災害リハビリテーションの実践』

D o R A T (北海道災害リハビリテーション推進協議会)
作業療法士 吉岡 英章
(医療法人社団 憲仁会 牧田病院 在宅事業部長)

災害リハビリテーションの支援

発災当初は、被害状況や被支援者の数や避難場所も刻々と変化していきますので、変化する現場を把握し、他の支援団体とも連携し、必要なところに必要な支援を提供していくことが必要となります。生活不活発病予防の観点から避難所等での要介護者や障がい者、また高齢者や乳幼児、妊婦などに対するリハビリニーズの把握、環境調整、必要時には個別的なリハビリテーション介入が提供されます。

また、小学校などの避難所に対応可能な医療施設あるいは福祉避難所などが適しているのかというリハ視点からの振り分けが必要になる場合もあります。

災害リハビリテーションの具体事例

入れ歯を紛失した方や高齢または何らかの理由で食べ物の飲み込みが悪い方に対し、おかゆやゼリー食の配布、水分について摂取が困難な方にはとろみ剤を配布



避難所の床上では立ち上がりが困難な高齢者や障がい者に対し、段ボールベッドや立ち上がりの補助になる台の導入、杖や歩行器などの補装具が必要な方の把握



屋内簡易トイレが使いにくいいため、開閉が重い扉を取り外し、プライベートカーテンに交換

屋外設置簡易トイレまでの段差解消と手すり設置



避難所での生活不活発病予防、エコノミークラス症候群防止のための体操



災害リハビリテーションの役割

避難所において支援が必要な方々は自ら支援を求めることはほとんどありません。「移動、食事、排せつ、睡眠などについてわがままを言って人に迷惑をかけてはいけない」という思いが強い日本人の特性かもしれません。そのため、心理面も含めた広い視野でリハビリテーションニーズを掘り起こすという役割が求められます。また熊本地震では、公的な避難所だけでなく、車中泊・テント・被災した自宅などに避難し災害リハビリテーション支援が必要な方が多くいらっしゃいました。どこにどのような方が避難しているかは現場のケアマネジャーさんの情報に頼ることとなると思います。ケアマネジャーの皆さんは担当利用者さまの最寄りの避難場所はすでに確認済みですね・・・？



一般社団法人日本経営協会 コミュニケーション・アドバイザー 岡本 真なみ

怒りは人間にとって自然な感情の一つです。しかし、怒りの感情をもっているからといって、一日24時間怒り続けている訳ではありません。では、怒りはどこからやってくるのでしょうか？今回は怒りの生まれる仕組みについてみていきましょう。

怒りの感情は第二次感情とよばれています。第二次があるということは、もちろん第一次感情もあります。第一次感情とは不安、つらい、苦しい、痛い、嫌だ、疲れた、寂しい、虚しい、悲しいといったネガティブな感情です。そして、この第一次感情があって、初めて第二次感情である怒りがあらわれるのです。

第一次感情と第二次感情の関係を次のイラストで確認していきましょう。私たちの心の中に空のコップがあるとイメージしてください。そのコップの中に第一次感情がたまり、いっぱいになったときに、何かのきっかけで第二次感情の怒りとなってあふれ出します。

気分が良くリラックスしているときには全く気にならないことが、疲れやストレスが溜まっていると気に障ることがあるのは、このコップがいっぱいになっているためです。



(C)一般社団法人日本アンガーマネジメント協会

現代人が怒りを感じるに関する調査結果 (Athealth.com調べ) の第一位は、「病院の待ち時間が長い」でした。

私たちが病院に行くのは体に不調を感じ痛い、つらい、苦しいときであるうえ、病状や金銭面への不安、育児や介護、仕事にまつわる心配など多くの第一次感情を抱えています。怒りの生まれる仕組みと合わせて考えると、この調査結果にもうなずけるのではないかと思います。

怒りの感情は強いいため、ついそこだけに目が行きがちです。しかし、その前にある第一次感情を意識すると、怒りともっと上手に付き合えるようになります。イラっとしたら、コップの中を意識することも大切にしてみてください。



札幌市ケアマネ連協 第1回 ケアマネ実践事例発表大会 ご案内



札幌市介護支援専門員連絡協議会では、ケアマネジャーの皆さまの日頃実践されていることや、苦勞された中で得た知識・経験等をご発表いただき、情報の共有を図ることを目的に、第1回 ケアマネ実践事例発表大会を企画しております。

詳細につきましては、大会募集要項を同封しておりますので、そちらをご覧ください。

日程：平成30年1月13日（土）／会場：札幌市社会福祉総合センター

かた苦しなく気軽に参加できる発表の機会としております。

紹介したい知識や経験、また発表を行う機会としてご活用いただけますと幸いです。

※一般参加のお申し込み等につきましては、次回12月号でお知らせいたします。



ケアマネ奮闘記 ①

ノーザリー居宅介護支援センター 羽山 貴浩

事業所は厚別区の山本通と厚別通の交差点近くで、住宅型有料老人ホームに併設されています。住宅は今年の9/1で開設2年を迎えました。特徴的なことは高齢者向けの住宅ですが、共生型になっていて、障がい（難病）の方の受け入れが可能であることです。40室ある居室のうち10室には喀痰吸引できる設備がついています。そのため、在宅人工呼吸器が24時間必要な方でも入居ができます。

私はケアマネとして働いて2年半が経過しましたが、現事業所に勤務するようになり、ALSなど難病の方の支援もさせていただくようになりました。先日、ケアマネシメント能力向上研修会で「障害福祉サービスと介護保険サービスの適用関係について」と札幌市の方より説明がありました。今だからこそ、説明内容を理解する事ができましたが、1年前で支援開始前だとしたら、正しく理解する事ができなかったと思います。支援を始める前に多くの方に多大なご協力をいただき、大変良い勉強の機会になりました。

気を付けたい点として、利用開始日があります。障がい福祉サービスと介護保険サービスとの決定的な違いは利用開始が申請日に遡らない点があります。受給者証が交付され、事業者と契約するまではサービスは利用できません。このため、相談支援専門員さんとの連携も必要になります。来年は平成30年4月の法改正を控えておりますので、動向を注視しながらより良い支援を目指して進んでいきたいと考えております。



ケアマネ奮闘記 ②

介護老人保健施設 ナーシングヴィラ大谷地 西田 弘美

11年前に、介護職員として入職し、3年前よりケアマネジャーとして勤務させていただいております。現在、入所者100人のケアプラン作成、介護保険の更新手続きなどを一人で担当しています。当施設は、在宅復帰支援機能加算を算定している事もあり、毎月入所、退所で、常に入所者様が入れ替わっています。

また身体状態や精神状態がなかなか安定しない入所者様も多く、日々の変化について行くのが大変です。日々悩んでいることは、施設ケアマネはみなさんそうかもしれませんが、資源が限られている事もあり、個別性のあるケアプランを作るのが難しい事。研修などに参加しても、居宅のケアマネさんが多く、情報交換が難しい事です。私自身もっと経験を積み、ステップアップしていけるよう日々の業務を頑張っていきたいです。

慌ただしい日々ですが、歩けるようになって自宅に帰りたいとの希望で入所された方が、リハビリをして歩けるようになり、ご家族と一緒に笑顔で自宅に帰られる。そんな入所者様を玄関でお見送りする時が最大の喜びです。これからも一人でも多く、笑顔でお見送りできるよう、また施設入所中の生活に満足していただけるよう、他職種と連携しながら、お手伝いできればと思っています。

北海道理学療法士会からのお知らせ



－ 在宅における装具の現状と対応 －

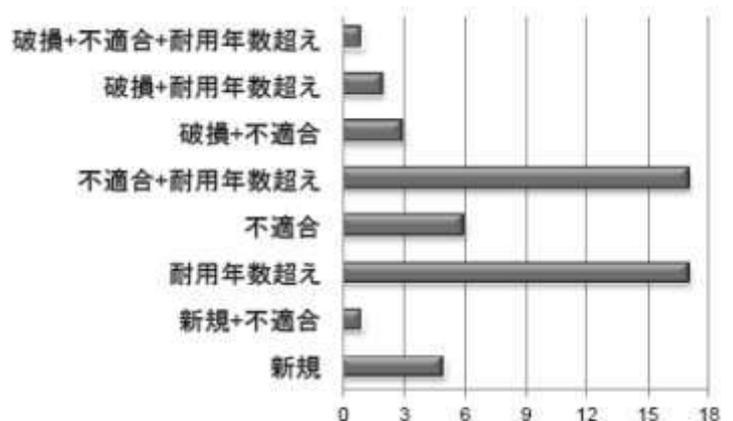
脳血管疾患で下肢装具を使用する方の多くは、病院で入院中に作成し、退院後も継続して使用されることとなります。近年、介護保険が導入されて以降は、徐々に病院外来でのリハビリテーション実施が減少し、作成された装具の適合状況、破損状況を病院の理学療法士が把握することができにくい状況になっています。このため、破損・不適合な状況が長く放置されていることが多くなってきています。

最近の装具作成理由としては右図のように耐用年数超え、不適合の例が多くみられています。不適合の内容として多かったものは、足関節可動域制限、足趾変形による疼痛、筋緊張の変化によるもの、歩容変化によるものなどでした。破損の状態が長く放置されている例も多くみられています。

在宅での装具の対応としては、破損したら早く修理すること、状態にあっていない装具は修正・再作成を早く行うことが必要です。

各地域で対応可能な病院がありますので、早い段階で相談してください。

北海道理学療法士会では装具作成した方やご家族、ケアマネジャーの方に利用していただけるよう、装具のしおりを作成しております。内容は下記の通りです。しおりは北海道理学療法士会のホームページよりダウンロードできるようになっています。ぜひご活用ください。



最近の装具作成理由

平成25年～27年 脳神経外科単科病院でのデータ

1. 下肢装具とは
2. 下肢装具の種類
3. 装具の付け方
4. 下肢装具チェックポイント
5. 下肢装具の耐用年数・保険
6. 修理費用について
7. 身障手帳での装具作成の流れ
8. 靴について

装具のしおり内容

装具のしおりはこちらからダウンロードできます。

北海道理学療法士会HP

<http://www.pt-hokkaido.jp/info/details/post-51.html>

問い合わせ先：公益社団法人北海道理学療法士会 濱本 龍哉

E-Mail：nejur@nifty.com



ケアマネSAPPORO108号 (2017年10月1日発行)

発行元：一般社団法人札幌市介護支援専門員連絡協議会

編集：一般社団法人札幌市介護支援専門員連絡協議会 広報委員会

広報委員長：長崎 亮一

広報委員：南 靖子／宮川 亮一／姉崎 重延／鈴木 晴美／伊藤 和哉／和田 賢太／飯田 裕一／藤川 宏子／佐賀 正人

E-mail：kouhou@sapporo-cmrenkyo.jp ホームページ：http://sapporo-cmrenkyo.jp/ (札幌ケアマネで検索可)